

平成 30 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立南百済小学校

平成 30 年 3 月

大阪市立南百済小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度から学校運営全体を通して、教職員が共通の目標である「確かな学力・豊かな人間性・心身ともに健康な子どもを育てる。」に取り組んでいる。

子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現に関わる「いじめへの対応」や「児童虐待への対応」については、日常的な児童観察、週毎の学年会、月毎の生活指導部会、職員会後の情報交換、学期毎の問題対策委員会、いじめアンケート、地域連絡会等を活用して早期発見及び解消に努めた。子ども相談センターや区役所子育て支援室等関係諸機関とできるだけタイムラグを作らず連携した。今後も関係諸機関との連携をさらに密にしながら解消に努める。「自尊感情の醸成」については、年間指導計画に沿って授業実践を重ねてきた。課題があればその都度カリキュラムを見直してその充実を図るとともに、保護者への啓発を継続する。心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上に関わる「言語力や論理的思考力の育成」については、各教科の学習活動においてペアやグループ、全体での話し合い活動を進んで取り入れてきた結果、自分の思いや考えを筋道立て述べる力が身に付いた。話型を例示するなど発達段階に応じた支援を行い、自分の思いや考えを筋道立てて相手に分かりやすく伝えることができるよう指導を継続していく。「自主学習習慣の確立」については、適切な教材を準備しつつ課題を明確にした結果、ほとんどの児童が習慣化した。今後も家庭学習が習慣化するように指導を継続しつつ、学習内容を定着させるための反復練習の大切さなど習慣化する意義を家庭に啓発し続ける。「理数教育の充実」については、観察、実験、飼育、栽培などの体験的な学習を充実しつつ、授業のICT化を積極的に進めてきた。今後もICTの研修会を充実させ、タブレット端末などを授業で効果的に活用する。健康・体力の保持増進に関わる「健康的な生活習慣の確立」については、手洗い・うがいの習慣化を目指してさまざまな取り組みを進めた結果、手洗い・うがいの実施率が上昇した。今後も予防という視点を大切にしながら、さらなる習慣化を目指す。「体力向上への支援」については、体育科授業内の準備運動や体ほぐし運動時に、週に1回以上、走の運動を意識的に取り入れたり、運動週間を設けたりした結果、50メートル走の記録に伸びがみられた。また、5年生を対象にした全国体力調査においても、良い傾向が見られた。今後も走力を高める取組を継続しながら、児童の運動・スポーツへの興味・関心を高めていく。「食育」については、各種の指導やたよりを充実させ、朝食喫食の重要性を知らせてきた結果、児童の意識が高まった。各種たより等で継続して朝食喫食が大切な根拠等を明確に保護者に伝え、朝食への意識をさらに高めていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ② 平成 33 年度の小学校経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75%にする。
- ③ 平成 33 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ④ 平成 29 年度～32 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を平成 28 年度より増加させる。
- ⑤ 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成 28 年度より増加させる。
- ⑥ 課題である 50m走の記録を、平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平成 28 年度より、0.2 ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 76%、29 年度 76.7%)

- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、平成 28 年度より 0.2 ポイント向上させる。

(本校 平成 28 年度 男子 9.9 秒 女子 10.2 秒)

学校園の年度目標

- 平成 30 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を平成 28 年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 72.2%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 学校で認知したいじめを 100%解消した。解消した割合を 95%以上にするという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。
- 平成 30 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答えた児童の割合は 94.1%を超えた。90%以上にするという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。
- 本年度の校内調査における暴力行為を複数回行う加害児童数は 0 であった。目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。
- 平成 30 年度末の校内調査における新たに不登校になる児童の割合は 0.23%であった。前年度の 0.51%を 0.28%下回り、目標を達成し、前年度より減少することはできた。しかし、今後も引き続き校内委員会を活性化したり、関係諸機関との連携を密にしたりするなどして取組を充実していく。

学校園の年度目標

- 平成 30 年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合は 77.8%であった。平成 28 年度 63.1%より向上させるという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、104.2 であった。前年度の 106.7 を 2.5 ポイント下回ったので、個に応じた指導や話し合い活動の充実や指導の改善をはかり、来年度は上回れるようにしたい。

○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させるという目標に対して、現 4 年生は 1.1 ポイント減少し目標を達成することができた。しかし、現 5 年生については 6.8 ポイント、現 6 年生については 7.5 ポイント増加し、目標に至らなかった。来年度も個に応じたきめ細かな指導を進めるとともに、より効果的な指導の在り方を探っていきたい。

現 4 年生 H29…6.9% → H30…5.5% (○↓ 1.1)

現 5 年生 H29…6.5% → H30…13.3% (●↑ 6.8)

現 6 年生 H29…0.0% → H30…7.5% (●↑ 7.5)

○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる目標に対して 4 年生、5 年生については大幅に増加させることができたが、6 年生については 1 ポイントに対しては 0.4 ポイント届かなかつたので、個に応じたきめ細かな指導を継続して進めていきたい。

現 4 年生 H29…5.6% → H30…28.8% (○↑ 23.2)

現 5 年生 H29…14.5% → H30…30.0% (○↑ 15.5)

現 6 年生 H29…18.8% → H30…19.4% (●↑ 0.6)

○平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合は 77.8% で、前年度より 1.1% 増加した。目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

（本校 平成 29 年度 76.7%）

○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録は男子が 9.34 秒、女子が 9.21 秒であった。平成 28 年度平均より、0.2 ポイント向上させるという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

（本校 平成 28 年度 男子 9.89 秒 女子 9.61 秒）

○平成 30 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答した児童の割合は 77.4% で平成 28 年度より 5.2% 増加した。目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

（本校 平成 28 年度 72.2%）

大阪市立南百済小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ○平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 ○平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。 ○平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	
学校の年度目標 ○平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75% 以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【施策1 施策名 安全で安心できる学校 教育環境の実現】 学校が認知したいじめについて、全職員で対応や解決策について話し合い、解消に向けて対応している割合を95%以上にする。</p>	A
<p>指標 学期毎にいじめアンケートを実施して解消率が95%以上になるように取り組む。</p>	
<p>取組内容②【施策1 施策名 安全で安心できる学校 教育環境の実現】 強調月間を学期毎に設け、「学校のきまり・規則を守っていますか」の質問に、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を学期毎に増加させる。</p>	A
<p>指標 学期毎のアンケートと小学校学力経年調査を実施して実態を把握し、その数値が高まっているかを確認する。</p>	
<p>取組内容③【施策2 施策名 道徳心・社会性の育成】 自尊感情を高めるため、教材を効果的に活用して実践する。</p>	A
<p>指標 学期毎にアンケート調査を行って実態を把握し、必要に応じて効果的な教材を準備する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①児童の様子に目を配り、また、アンケート等を通して現状を把握し、認知したいじめについては、全て解消に向けて対応している。</p> <p>②規範意識は高く、「学校のきまりを守っていますか。」の質問に対して「できている」「ときどきできている」と答える児童の割合は95%を超えた。また、「元気よくあいさつすることができますか。」の項目で、できていると答えた児童の割合が昨年度より7.3%増加した。</p> <p>③全体的に自尊感情が高く、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、「当てはまる(どちらかといえばといえれば当てはまる)」と答える児童は、年間を通して75%を超えていく。</p>	
来年度への改善点	
<p>①今後もいじめが認知された場合は、すぐに解消に向けて対応していく。</p> <p>②継続して指導を続け、来年度は「できている」と答えている人数が少ない、「廊下・階段は走らず歩くことができていますか。」という項目について強調週間を設け取り組んでいく。</p> <p>③教材を効果的に活用し、家庭への啓発を続けていく。</p>	

大阪市立南百済小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。</p> <p style="text-align: right;">(本校 平成 28 年度 76%、29 年度 76.7%)</p> <p>○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、平成 28 年度より 0.2 ポイント向上させる。</p> <p style="text-align: right;">(本校 平成 28 年度 男子 9.9 秒 女子 10.2 秒)</p>	
<p>学校の年度目標</p> <p>○平成 30 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を平成 28 年度より増加させる。</p> <p style="text-align: right;">(本校 平成 28 年度 72.2%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 算数科において、習熟度別・少人数指導などの個に応じた指導を充実させる。	A
指標 算数科において、習熟度別・少人数指導など個に応じた指導を年間指導計画の95%以上行う。	
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 各教科において、ペアやグループでの活動を効果的に取り入れることで、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう指導する。	A
指標 学期毎にアンケートを取り、「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、76.7%より増加させる。	A
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の走の運動に重点を置いて取り組むとともに、かけ足やなわとび週間等各種の運動強調週間をきっかけにして、体育に親しもうとする態度を育成する。	A
指標 体育科の準備運動や体ほぐしの運動の中に、週1回以上走の運動を取り入れる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①算数科において、全ての単元で習熟度別や少人数指導を行い、目標を達成することができた。</p> <p>②「話す」「聞く」指導の指標として、ループリックを作成し、国語科・道徳科をはじめ、全ての学習活動の基として指導を進めた。ペア学習やグループ学習を各単元の指導計画の中で計画的に設定し、自分の意見を発表する機会、友だちの考えを聞く機会を多く持てるようにした。その結果、最終評価で77.8%と昨年の76.7%より1.1ポイント増加した。</p> <p>③週に1回以上の走の運動を計画的に取り入れていくことができた。また、かけ足やなわとび週間では、カードやCDを用意して取り組んだ。その結果、「走ることが好きですか」というアンケートで、「とても好き」「好き」と肯定的に回答する児童の割合が、55%から74%に向上するなど、児童の意欲を高めることができた。</p>	
来年度への改善点	
<p>①来年度も同じような指導形態で、継続的に取り組む。</p> <p>②話し合い活動は、計画的に取り入れているが、効果的な内容や場の設定については、吟味していく。</p> <p>③走力向上及び、児童の意欲向上に向け、継続的に取り組んでいく。</p>	

平成 30 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立南百済小学校 学校協議会

1 総括についての評価

視点「子供が安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」に関わるほとんどの目標において、一定の成果が上がっていたので安心した。規律を順守しようとする姿勢や自尊感情が育くまれているのは安心できる。今後もいじめや不登校、虐待等対応をきめ細かく行ってほしい。視点「心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上」については、重点的に取り組んだ目標においてよい傾向が見られたので安心した。個に応じた指導を充実させたり、話し合い活動を活性化させたりするなどして、さらに学力を伸ばす取組を進めてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

- ①平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ②平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- ③平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
- ⑤平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75%以上にする。

- ①学校で認知したいじめを 100%解消に向けて取り組んでいることは素晴らしいが、アンケート等で把握できていないことなども把握できるような環境を作つておいてほしい。また、いじめだけでなく、虐待についても情報提供しやすくなるような形式等を考えいただけたとありがたい。
- ②「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について規範意識の高さが見られるし、授業も落ち着いているので継続して指導にあたってほしい。
- ③暴力行為等が無いのは安心できる。取組を継続して進めて欲しい。
- ④新たに不登校になる児童の割合は減少したのは素晴らしい。今後も引き続き校内委員会を活性化したり、関係諸機関との連携を密にしたりして取り組んで欲しい。
- ⑤児童の自尊感情醸成の充実に向け、今後も学校だけでなく、家庭の協力を得ながら進めて行って欲しい。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

- ① 平成 30 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- ②平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。

③平成 30 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。

④平成 30 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 76%、29 年度 76.7%)

⑤平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、平成 28 年度より 0.2 ポイント向上させる。

(本校 平成 28 年度 男子 9.9 秒 女子 10.2 秒)

⑥平成 30 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を平成 28 年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 72.2%)

①前年度の 106.7 を 2.5 ポイント下回ったので、個に応じた指導や話し合い活動の充実や指導の改善をはかり、来年度は上回れるようにして欲しい。

②現 4 年生は 1.1 ポイント減少し目標を達成することができてよかったです、現 5 年生、現 6 年生については減少させることができなかつたので、来年度、さらに減少させられるよう個に応じたきめ細かな指導を進めてほしい。

③全学年とも増加させることができたのは良かったが、6 年生については 1 ポイントに対しては 0.4 ポイント届かなかつたので、さらに個に応じたきめ細かな指導を進めて欲しい。

④話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますしつかり指導されていることがわかった。来年度も取組を継続して進めてほしい。

⑤特に課題である 50m 走の平均の記録は向上させるという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進めてほしい。

⑥肯定的に回答した児童の割合は増加しているので、来年度も取組を継続して進めてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

○いじめや虐待等がすぐにキャッチできるような環境づくりや、児童がすぐに報告できるようなアンケート項目の精選を行い、児童の S O S を素早くキャッチできる体制を今後も維持してほしい。

○児童の安全のため、学校教職員をはじめ地域や関係諸機関がしっかりと連携していることがわかつたが、指定外通学、学校選択制での校区外から通う児童の安全確保の在り方や、地域や関係諸機関との関わりを今後考えていく必要がある。

○児童一人ひとりにとって居心地がよく、学校選択制でもたくさん選んで来てくれる学校を目指してほしい。地域も全面バックアップしていく。

○小学校学力経年調査において目標が達成できた項目以外の達成できていない所や、課題に向けて、しっかりと来年度取り組んでもらいたい。